

マイ・ラブリー・ライブラリー

登場人物

アイ	一九八二年九月二日生まれ
松本ケイタ	一九八二年五月十二日生まれ
渋谷カナコ	一九八二年十月二十四日生まれ
五所川原ソウタロウ	一九八二年六月三日生まれ ①
青山トモエ	一九五二年四月二十三日生まれ
五所川原ツトム	一九五二年七月一日生まれ ②
男1	?
男2	?
五所川原エイジ	一九二七年九月二十二日生まれ ②
五所川原ソウイチロウ	一八八八年八月十八日生まれ ①

...and

サクラコ

?

※①、②は、それぞれ、同じ役者が演じる。

序章 遠く何万光年も離れた宇宙の絶対零度のよう

昔、学校の図書室が好きだった。

ひっそりとしていて、それでいて何かが起こりそうな、そんな予感。

朝、誰もいない図書室の、あの静けさ。

窓から差し込む朝日に、埃がキラキラと輝いていた。

でもある日、気がついたんだ。

誰よりも早く図書室に行ったのに、

カウンターのカレンダーは、不思議といつも新しい日付だった。

あのカレンダーは、誰が変えていたんだろう。

*

舞台、薄暗い学校の図書室。レトロモダンの木造建築で、恐らく校舎とは離れになっているの
らう。

下手には、カウンター。奥に出入り口。上手には、書架があり、舞台袖まで続いている。カウ
ナーの上には、日替わりのカレンダーがある。返却日が分かるようにするためのものだろう。プロ
ック式のもので、ブロックを回転させることで、日付を変えるタイプのものだ。

しつとりと雨音。

そこにカナコ、登場。

《制服1》。スクールバッグを持っている。スカートは短く、ルーズソックスを履いている。

(高校生の制服は3種類用いられる。以下、このように表記する。)

1990年代のもの 《制服1》
1960年代のもの 《制服2》

1945年のものⅡセーラー服 《制服3》

カナコ、カウンターの中に入って、図書当番の仕事をする。図書館ノートに、何かを記入。舞台には、クロスたち。

クロスたちは、図書室に秘められた、これまでのさまざまな人々のさまざまな思いのようにも見える。

カナコがノートに走らせる言葉を、クロスたち、静かに語り出す。

クロス 朝、

クロスたち 朝、

クロス 雨は、

クロスたち 雨は、

クロス 昨日の夜からずっと降り続けている、

クロスたち 薄暗い朝。

クロス まるで、

クロスたち まるで、

クロス 遠く何万光年も離れた宇宙の

クロスたち 宇宙空間の

クロス 絶対零度のように、

クロスたち ひっそりと、

クロス そうひっそりと、

クロスたち 空気は少しも動いていない。

クロス カビた本の匂いにも、もう慣れてしまった。

クロスたち 朝の図書室、

カナコ、カウンターの上のカレンダーに目をやる。

1999年、11月12日の文字。

カナコ あれ、日付、変わってる・・・誰が、変えてるんだろう。

カナコは、そう呟いたあと、図書館ノートを閉じる。

と、図書館ノートに挟んであった、小さいカードを手にして、

カナコ お母さん・・・

と、カウンターの上に積んであった本が崩れる。

カナコ わー。

静かに、オープニングムービー。

主題歌。(小谷美紗子さんの『オオカミ』を使用させていただきました)やがて、

「2009年11月12日」の文字。

カウンターのカレンダーの文字も、2009年11月12日に変わる。

第1章 少年時代の君

薄暗い図書室。

夜のもようである。

トモエ、書架の奥から出てくる。辺りをうかがっている。

トモエは、《制服2》 Ⅱ 1969年のもの。

と、そこへ、アイとケイタの声が近づいてくる。

トモエはその気配を感じて書架に隠れる。

アイとケイタは私服。

アイ ちよつと、やっぱりまずくない？

ケイタ 大丈夫だって、日曜日なんだから、誰もこないし。

アイ ねえ、

ケイタ おー、懐かしい！うわー、めっちゃテンション上がるよー、

アイ 勝手に入ったら怒られるよ、きつと、

ケイタ いやー、変わってないなー、あの頃と。

アイ もう。

と、書架に隠れていたトモエ、こっそり外に出ていく。

気配に気づいたアイ。

アイ あ！誰かいた。

ケイタ え？

アイ ねえ、

ケイタ え？ あ、フフフフ、怖いんでしょ。

アイ え？何が？

ケイタ ここね、心霊スポットでもあるから。

アイ は？

ケイタ 出るんだよ、これ(ユーレイ)

アイ ちよつと、変なこと言わないでよ。

ケイタ、アイをニタニタしながら見つめている。

ケイタ ふふふふーん、

アイ ・・・なに？

ケイタ ちよつと、カウンターに座って。

アイ は？

ケイタ いいから、早く。

アイ、カウンターの中に入る。

ケイタ 座って、

アイ (座る)

ケイタ (眺めて) むふふふふ。

アイ 気持ちわる！なんなの？

ケイタ あー、いいからいいから、そうしてて。

ケイタ、奥から本を持ってきて、カウンターに座るアイに差し出す。

アイ なに？

ケイタ ほーらー、借りる手続き。

アイ はあ？

ケイタ だーかーら、図書館ごっこだよー。

アイ 何やってんの！バカバカしい。

ケイタ あーいー、いけずー。せつかく、そのために来たのにい。

アイ (ためいきをついて) どうやんの？

ケイタ えっと(カレンダーを見て) 11月19日までです、って。

たぶん、貸出期間は「週間なのだ。

アイ (笑顔で) 11月19日までです！

ケイタ ・・・違うんだなー

アイ めんどくさ！

ケイタ なんて言うの？そういう嘘っぽい笑顔とかじゃなくてさ。

アイ 嘘っぽいって。

ケイタ こう、ツンデレ？

アイ はあ？

ケイタ じゃ、(本を差しだして) コレ。

アイ (そっけなく) 11月19日までね。

ケイタ ・・・ま、いつか。

アイ やらせといてあんた。

ケイタ でね、本渡すときに、「どうせ読まなくせに」ってボソって言うて。

アイ ええ？「どうせ読まなくせに」

ケイタ (興奮して) いー、いーよ！ね、制服着てみる？

アイ は？

ケイタ そうだよねー、やっぱりカッコも重要だから。ちょっと待ってて。

アイ ちょっと、何、言ってるの！

ケイタ、奥から、旅行カバンを持ってきて、《制服1》を取り出す。

ケイタ これでいい？

アイ あんた、ホントに変態でしょ！

ケイタ 実はね、変わる前の制服がこれなんだよね (《制服2》を取り出す)

アイ ちょっと！いくつ持ってるの！

ケイタ あ！あのね、実は、その前はセーラー服だったんだよ、この学校。それも用意してあるか

ら、そっちがいい？ ちょっと待ってて、車から取ってくる。

ケイタ、外へ飛び出していく。

アイ ちょっと！ケイタ！・・・全く。

アイ、ため息をついて椅子に腰かける。

そこへ、セーラー服姿《制服3》のサクラコ登場。アイに驚く。

サクラコ ……

アイ あ、はは、こんにちは。

サクラコ (会釈する)

サクラコ、奥へ。

しばらくして、本を取って戻ってくる。椅子に座って本を読み始める。

まずいな、という表情のアイ。

しばらくして、サクラコ。

サクラコ (本を読みながら) 彼氏さんですか。

アイ え? …… ええ、ま、まあね。

サクラコ 制服小脇に抱えてすごい勢いでダッシュしました。

アイ あ、ああ。

サクラコ たぶん見つかったら、通報されると思います。

アイ は、はは。

サクラコ、本を読んでいる。

サクラコ (本を読みながら) 卒業生の方とかですか。

アイ え? ああ、私は違うんだけどね。

サクラコ ……ふうん。

サクラコ、本を持ってカウンターへ。貸出の手続きをする。

サクラコ あの、気をつけた方がいいですよ。

アイ え?

サクラコ ここ、出るらしいですから。

サクラコ、去る。

アイ え?

と、アイ、気がついて、

アイ あれ、日曜日じゃなかったっけ……

サクラコの去った後、静まり返った図書室。

アイ、独白。

アイ 彼の思い出めぐりに付き合ってた訪れた、高校の図書室。彼には懐かしい部屋も、私にはよそよそしい眺めでしかない。なんだか、急に寂しくなってきたしまった。

アイ、カウンターの中に入ってみる。そして、ノートを見つける。

アイ 図書館ノート……。こんなに昔のからずっと。1999年、10年も前のだ。

アイ、カウンターを出る。

アイ 10年前、彼はここにいたんだ。

と、カウンターのカレンダーの日付を変えてみる。

アイ 1999年11月12日・・・

と、突然、爆音と閃光。

悲鳴を上げるアイ。倒れこむ。

やがて爆音がおさまると、カウンターの奥にカナコ。崩れた本を戻している。

(序章で本が崩れたシーンにつながる)

カナコ よいしょっと。あー、びっくりした。

カナコ、倒れているアイに気づく。

カナコ あ！ちよっと、どうしたんですか！

カナコ、アイのもとに駆け寄る。

アイ (気づいて) は！ 誰！

カナコ いや、あなたこそ誰ですか。

アイ 何、今の、

カナコ は？

アイ いや、今、すごい爆発、

カナコ 爆発？

アイ あれ？

アイ、辺りを見回す。

そこへ、ガリ勉のソウタロウ、登場。

ソウタロウ あ、お、おはよ。

カナコ う、うん、おはよ。

ソウタロウ、机に座って勉強。

アイ え？なんで、日曜日なのに、こんなに生徒がいっぱい来るわけ。

カナコ え？日曜日？ いや、今日は、ねえ、ソウタロウ君、今日、何曜日？

ソウタロウ (勉強しながら) ゲッツ！

カナコ あははは、月曜日。

アイ え？あれ、なんだっけ。ダンディ坂野？古っ。

カナコ もしかして新任の先生ですか？

アイ え？ あ、いや、あのね。

ソウタロウ (突然) 先生。

アイ は、はい？

ソウタロウ 僕は、3年3組の五所川原ソウタロウです。せ、先生は、先に発足した第二次小渕内

闇についてどのような考えをお持ちですか。
アイ はい？ あ、いや、私、先生とかじゃないのよ、あれ？ あー、もう、ケイタ、どこ行
つちやったのかな、・・・ちよつとごめんね。

アイ、混乱しながら外に出ていく。
残される、カナコとソウタロウ。
ソウタロウ、そわそわとし始める。

ソウタロウ カナコさん、・・・やっど二人きりになったんだな。

カナコ ちよつと何、言ってるの？

ソウタロウ そ、そんなんじゃない。ただ、ぼ、僕は、カナコさんと、ゆっくり日本の未来について
語りあいたいだけなんだな。

カナコ え、あ、ああ、うん。

ソウタロウ 日本の未来は、WOW, WOW, WOW, WOW

カナコ ・・・

ソウタロウ あ、いや、ぼ、僕は、ひ、ひいおじいちゃんみたいに立派な政治家になって、こ、この
日本を変えたいんだな。

カナコ ああ、その話は何度も聞いたよ。

ソウタロウ 僕のひいおじいちゃんは、当時の総理大臣 鈴木貫太郎に

カナコ 鈴木貫太郎に早く終戦をするように働きかけた、立派な政治家なんですよ。

ソウタロウ そ、そうなんだ。それにぼ、僕の名前は

カナコ ひいおじいちゃんの五所川原ソウイチロウからとって五所川原ソウタロウになったん
でしょ。何度も聞いたよ

ソウタロウ だから、

カナコ (話を遮って) ああ、ねえねえ、

サクラコ、話の最中にいつの間にか登場している。
机に座って読書が始めている。

カナコ (こそこそと) ねえ、あの娘、どこのクラス？

ソウタロウ え？さ、さあ、

カナコ 毎日くるんだけど。

とそこへアイ、再び登場。

アイ おかしい。

カナコ・ソウタロウ え？

アイ ケータイに、・・・外にいた女子高生。

カナコ はあ、

アイ ケータイに、アンテナついてる。

二人 は？

アイ いつの時代よ！

アイ、激しく混乱。

カナコ ああ、そう言えば、私のケータイ、アンテナ取れちゃたんだよね、(取り出して)
アイ ！

ソウタロウ お、おお、それが携帯電話かあ、
カナコ いいでしょ。ツーカーだよ。ツーカー、つかあて欲しい♪
アイ おかしい！ ツーカーって、はは、ツーカーって。

アイ、混乱している。

アイ (思いついて) あ、分かった。からかってるんですよ。何？ どつきり？ ケイタがこんな
とこ呼び出しといて、プロポーズ、みたいな作戦？

カナコ・・・あの、何、言ってるんですか？

アイ ちよつと待って。分かった。じゃあ、あれね、えつと、今のアメリカ大統領は、
ソウタロウ クリントン。

アイ あははは、クリントン。懐かしー。今年のプロ野球で優勝したのは？

カナコ えつと、ダイエーホークス。

アイ ダイエー！あははは。ダイエーね。ダイエーって。じゃあ、今のヒット曲は、

二人 ダンゴ三兄弟。

アイ ダンゴ三兄弟♪ あはははは。おもしろーい。

書架からサクラコ登場。

サクラコ 1999年ですよ。

アイ え？

サクラコ 今日は、1999年11月12日。

サクラコ、新聞を渡す。

アイ 1999年11月12日。党首討論。小渕首相？生きてる。え？ ちよつと待って、私は1
999年に？

カナコ あの、もしかして、ケイタの知り合いですか？

アイ ケイタ？ 松本ケイタ知ってるの？

カナコ ま、まあ、知ってるっていうか、幼馴染だし、

アイ 幼馴染？ あなたと？・・・あなた何歳？

カナコ 十六です。

アイ どっかにいるの？

カナコ あ、ちよつと今頃、来るころだと思うけど、毎日、来るんだよね、授業始まる前に・・・

と音楽。

ケイタ、タンラン、ボンタンの不良スタイル。ラジカセを抱えて登場。

アイ うわ、めっちゃ不良じゃん！

一同、目を合わせようとしなない。

アイ あの格好はこの時代でもちよつと恥ずかしいんじゃない・・・

ケイタ、書架から本を持ってきてカウンターへ。

ケイタ ほらよ。

カナコ、カウンターで貸し出しの手続きをする。

カナコ （手続きをして） 11月19日までね

ケイタ ああ。

カナコ （ぼそっと） どうせ読まなくせに。

ケイタ なんか言ったか、コラ！

と、やり取りを聞いていて感づくアイ。

アイ ああー！今の！

ケイタ あん？

アイ はいはいはいはい。

ケイタ あんだお前。なんか文句あんのか、コラ！

アイ 可愛い。

ケイタ あん？

アイ （ケイタの本を取り上げて） 小林多喜二『蟹工船』。絶対、読まないでしょ、あなた。

ケイタ ぶつ殺されてえのか、コラ。

ケイタ、アイから本を取り返す。ついでにケイタ、ソウタロウにも八つ当たり。

ケイタ 何、見てんだ！コラ！

ソウタロウ ああ、ぼ、僕のひいおじいちゃんは立派な。

カナコ、アイを連れてくる。

カナコ やばいよ、あんまりかわわらない方がいいよ。

アイ 大丈夫よ。わー、すごい。貸出もバーコードとかじゃないんだ。

アイ、カウンターを物色し始める。

アイ 本に貸出カードがついてて、それで、個人カード。そうそう、昔はそうだったなあ。懐かし

い。貸出カードには、昔、この本、借りた人の名前が残ってるんだよね。

カナコ ええ？

アイ あははは、ねえ、この個人カードあなたの？

アイ、ケイタからカードを取り上げる。

アイ （読んで） 志賀直哉、ブレイズ・パスカル、山本周五郎、カール・マルクス、夏目漱石、趣

味バラバラじゃない。

ケイタ うるせーな。

アイ そして、絶対読んでないでしょ。

ケイタ 返せよ。

アイ あのね、タイムスリップしちゃったみたい。

ケイタ あん？

アイ タイムスリップ。

と音楽。
一同、オープニングダンス。
その中から一人はずれるカナコ。カレンダーを見つめているカナコ。
映像「1969年6月24日」

第2章 必ず終わりますから

カウンターの文字も1969年6月24日に変わる。
図書館に立てこもっている生徒たち。
男子生徒は、学ラン。女子生徒は、《制服2》である。
学生たちは、ヘルメットや角材、タオルなど、学生運動の出で立ちである。
ただし、カナコは其中で、ミニスカート、ルーズソックスの《制服1》である。
また、《制服3》＝セーラー服のサクラコもいる。

ツトム シュプレヒコール！我々、ピース・バイ・ピースは、学校側の体制的教育に対して断固として抗議する。
全員 抗議する！
ツトム 学校側は、我々、ピース・バイ・ピースの学校内における反戦署名の妨害をするな！、
全員 反戦署名の妨害をするな！。

カナコはどうしていいか困っているが、トモエに促されてシュプレヒコールを試みる。

ツトム 我々が築いたこのバリケードは、全高等学校生の自治の最後の砦である。
全員 最後の砦だ。

ツトム よし、本日結集してくれた学友諸君。これから長い闘いになるやもしれんが、我々ピース・
バイ・ピースは、断固として抗議を続ける。

全員 異議なし！
ツトム それでは、戦略会議を開催しよう。忌憚のない意見を述べてくれたまえ、・・・とその前に、

ツトム、カナコに近づいて、短いスカートをなめるように見る。

ツトム 見慣れない顔だな。
カナコ え？ ああ、あは。

ツトム 君。
カナコ はい。
ツトム 靴下がダボダボじゃないか、(ルーズソックス)

カナコ あ、いや、これは。

ツトム ブルジョアに搾取されたプロレタリアは、靴下一つも買う余裕がないのか。

男1 スカートの布も、こんなに節約している！

男2 私は、洋服が満足に着れることを当たり前と思っていたプチブル的発想を自己批判します。
全員 自己批判します！

ツトム (カナコに) 心配することはない。我々は常に開かれている。その気があるなら、すぐにでも参加してもらって構わない。

カナコ は、はあ。

トモエ (サクラコを紹介して) 彼女もこの前、参加するようになったばかりなの。
サクラコ よろしくね。

カナコ あれ、あなた・・・、

サクラコはなぜか、いろんな時代に登場する。
カナコ、サクラコの顔を見て、訝しむ。

男2 いつの間にか、参加してたんだ。

ツトム 私は、3年3組、五所川原ツトムだ。

カナコ 五所川原・・・

カナコ、ツトムを見つめ、

カナコ あ、ソウタロウくんのお父さん、

ツトム なんだって？

カナコ あ、いや、

男1 五所川原さんは、ピース・バイ・ピースのリーダーなんだ。

男2 五所川原さんのおじいさんはあの鈴木貫太郎に早期の終戦を進言した人なんだ。

カナコ ああ。

トモエ 私は、3年1組、青山トモエ。ピース・バイ・ピースに参加して1年になるわ。

カナコ (驚いて) アオヤマ・・・トモ・・・

カナコ、握手する。

しかし、カナコ、その手を離さない。

ついでに頬ずりもする。

トモエ ちよつと、何してんの！

男1 私は、今のスキンシップをちよつと羨ましいと感じてしまった、革命戦士としてあるまじき
発想を自己批判します！

男2 自己批判します！

サクラコ ま、とにかく、仲間が増えることはいいいことじゃない。

トモエ そうね。

カナコ、トモエの持っている本に気づいて。

カナコ あの、『資本論』、

全員 え？

カナコ 『資本論』、読んだんですか、

トモエ もちろんよ。左翼活動をしている者なら、当然よ。

男2 私は、カール・マルクス氏の『資本論』を読み始めて、途中で居眠りをしてしまったことを
自己批判します。

ツトム 馬鹿もん！（殴る）

カナコ 何が書いてあるんですか？五所川原さん。

ツトム え？ そ、それは、お前、あれだよ。な、なあ、

男1 え、ええ、ねえ、

トモエ そうね、簡単に言うなら、古典派経済学の批判を通じて、資本主義的生産様式、剰余価値の
生成過程、資本の運動諸法則を明らかにしたものよ。

「そうなんだよ」とツトムたち。

カナコ はあ、
トモエ つまり、資本主義社会においては、資本家が労働者を搾取するという社会構造になることは免れないの。それを科学的に説明した名著ね。

「そうなんだよ」とツトムたち。

カナコ そうですか。

トモエ 大丈夫よ。今は読めなくても、きつと読めるようになるわ。

カナコ はい……。でも『資本論』。感謝してます。そのおかげで、みなさんに出会えたんですから。

全員 ……？

一同、カナコの言葉が理解できない。

ツトム それ、そうか。よし、それでは、戦略会議を開こう。我々、ピース・バイ・ピースは、学校側が我々の要求を飲むまでは、断固としてバリケード封鎖を保守する。

全員 異議なし。

カナコ 五所川原さん、質問。

ツトム なんだ。

カナコ あの、ピース・バイ・ピースの要求って？

トモエ 学校側はね、私たちの反戦署名活動を妨害したの。

ツトム そして、学校と我々との口論になり、学校側は、我々を謹慎処分にしようとした。

トモエ 許せないわ。

男2 許せません！

カナコ 反戦？

トモエ そう、ベトナム反戦運動よ。

カナコ ベトナム反戦運動か……。大丈夫です。

全員 え？

カナコ 必ず終わりますから。

第3章 人間は考える葦である。

映像。

「場面は変わって、1945年6月23日の文字」。

カウンターの文字も変わる。

兵士の格好をしたエイジ登場。

カウンターの奥に入って、日記をつける。

エイジ 今日は、ブレイズ・パスカル氏『パンセ』を読んだ。パスカルは言った。人間は考える葦である。人間はひとくさの葦にすぎない。自然は、いとも簡単に葦を殺すことができる。しかし、葦は考えることができるのだ。

そこへ、軍人ソウイチロウ登場。軍服。
気配を察して隠れるエイジ。
しかし、ソウイチロウ、

ソウイチロウ エイジくん。そこにいるのは分かっているんだ。出てきたまえ。

エイジ、のそのそと出てくる。

ソウイチロウ 私はとても残念だ。日本男児たるもの、戦地に赴くことを誇りに思わなくてはいかん。まさか、逃げ出そうなどと思っているとは考えたくもない。

エイジ

ソウイチロウ 何を読んでいるんだ？パスカル・・・（投げつけて）こんな鬼畜米英の書物など読んでいるから、精神まで軟弱になってしまうのだ！全く、鈴木君が懸命に闘ってくれているというのに、私は自分の息子さえも満足に戦地にやることができなことはないとは。

とそこへ、サクラコ登場。

ただし、衣装はセーラー服にもんぺを履いている。

サクラコ ソウイチロウおじさん、

ソウイチロウ ああ、サクラコちゃん。君からも何か言ってやってくれ。ウチの息子のだらしないこと、

サクラコ ・・・最後の別れを言わせてください。

ソウイチロウ そうか、わかった。終わったら、支度をするんだ。

ソウイチロウ、出ていく。

サクラコ 何、読んでたの？

エイジ パスカル、

サクラコ すごいね、エイジくんは学者だな。

エイジ ・・・本を読んでいると分かるんだ。この戦争は間違ってる。

サクラコ え？

エイジ 一刻も早くこんな戦争を終わらせて、日本は民主的な国を作るべきなんだ。

サクラコ そんなこと、外に出て言っではいけないわ。

エイジ うん。でも、僕、父さんに言ってみようと思う。

サクラコ え？

エイジ 父さんさ、総理大臣の鈴木貫太郎と知り合いなんだ。昔のよしみで話が通じるかもしれない。政府の関係者にも知り合いが多いし、

サクラコ でも、

エイジ 勇気を振り絞るんだ。そしたらきっと伝わる。この国では、僕はただの兵士だ。けれども僕は、考える兵士なんだ。

第4章 図書館ノート

映像「再び、1999年11月12日」。

アイ、ソウタロウ、そしてケイタが図書館に入ってくる。

アイ いや、本当なんだって。

ソウタロウ 信じられないな、ぼ、ぼくの尊敬する横山ノック師匠が。

アイ そう、ウグイス嬢にヘンタイなこととして辞任するの。たぶん、もうすぐよ。

ソウタロウ　　そ、そして、そのまんま東。

アイ　　宮崎をどげんかせんといかん！もう流行語なんだから。いやー、すごいよね、でもこの

カレンダー。ねえ、ところで、あなたたち、授業出ないわけ？

ソウタロウ　　ぼ、ぼくは、受験勉強が忙しいから。

アイ　　ええ？さぼってんの？

ソウタロウ　　人聞きの悪い言い方をしないでくれるかな。僕は政治家になるために勉強をしているんだ。僕のひいおじいさん、五所川原ソウイチロウは、立派な政治家で、総理大臣　鈴木貫太郎に早く終戦をするように、働きかけたんだ。

へえ。

アイ　　俺は、タルイだけだけどな。

ケイタ　　先生とか来ないの？

アイ　　こ、この学校は、図書室だけは生徒の自由が認められているんだな。な、なんか、昔の

ソウタロウ　　学生運動の名残らしくて。

ケイタ　　ま、かっこのサボリ場だけどな。

アイ　　ふうん。あの子も？

ソウタロウ　　あの子？

アイ　　ほら、カウンターにいた、ルーズソックスの。

ソウタロウ　　ああ、カナコさん。カナコさんは、かわいいよね。

ケイタ　　（急に怒りだして）あん！

ソウタロウ　　あ、いや……。カ、カナコさんは、去年、お母さんが亡くなってから、落ち込んじゃ

アイ　　あって、授業に出なくなっちゃったんだ。

ソウタロウ　　ふうん、お母さんが。

アイ　　明るくふるまってるけど、実はね。

そこへ、サクラコ登場。

もんぺではなく、スカート。あわてた様子である。

サクラコ　　ねえ、カナコちゃん知らない？

アイ　　え？　　ああ、さっきまでそこにいたけど。

サクラコ　　さつき、なんか思いつめた顔してて。

ケイタ・ソウタロウ　　え？

サクラコ　　カナコちゃん、去年、お母さん亡くなってから、様子がおかしいから。

ソウタロウ　　ああ、そう言えば、さつきから姿が見えないんだな。

ケイタ　　（サクラコ）おい、どういうことだ、これは！

サクラコ　　いや、そんなこと私に言われても。

アイ　　え、だって、明るくさつき。

サクラコ　　表面上は明るくふるまってるのよ。でも、さつき、ブツブツと過去に行けるとか、どう

とか、訳のわからないことを。

全員　　あ！

全員、カレンダーを見つめる。

サクラコ　　え？何？

アイ　　タイムスリップしちゃったんだ・・・

サクラコ　　な、何？

アイ　　このカレンダー、タイムマシンなのよ。

サクラコ　　え？

ソウタロウ つまり、このカレンダーの日付を変えると、その日の日付に変わっちゃうというわけなんだな。

サクラコ

嘘。

アイ

それで私は来たんだから、2009年から。

サクラコ

じゃ、じゃあ、今頃、カナコちゃんは。

全員

.....

ケイタ

やべえ、助けに行こう。

ケイタ、カレンダーの日付を変えようとする。

アイ

ちよつと、でもどこに行ったかわからないじゃない！

ケイタ

そんなの決まってるだろうが。

アイ

どこよ。

ケイタ

縄文時代。

アイ

なんの根拠があって言ってんの！

サクラコ

ねえ、あの子、日記書いてたじゃない。

ケイタ

あ、

ソウタロウ

あ、ああ、と、図書館ノートなんだな。

サクラコ

それを見れば、何か手掛かりがあるかもしれない。

全員、カウンターに入っていく。

アイ

何？ 図書館ノートって、

ソウタロウ

代々、図書委員の子が、感じたこととか、読んだ本の感想とかを、ノートに書いてるんだな。

アイ

交換日記みたいな？

ソウタロウ

ま、まあ、そんな感じかな。

ケイタ

(日記を読んで)朝、雨は、昨日の夜からずっと降り続けている。薄暗い朝。まるで、まるで、遠く何万光年も離れた宇宙空間の絶対零度のように、

ソウタロウ

なかなか、よく書けているんだな。

ケイタ

これが、どう手掛かりなんだ！

アイ

まあまあ、焦らない焦らない。

サクラコ

こっちにもいっぱいあるから。

サクラコ、埃のかぶった段ボール箱を取り出す。

アイ

すごい、こんなに古いのである..... 1945年？

サクラコ

あ、見て、これ。

アイ

え？ 1945年6月23日。なんか、昔の人って達筆。

ケイタ

で、何が書いてあるんだよ。

アイ

今日は、ブレイズ・パスカル氏『パンセ』を読んだ。すごい、なんか頭よさそう。

サクラコ

そこじゃなくて、ここ。

アイ

僕は、この日、奇跡にめぐり合うことになった。未来からきたという奇妙な者たちが現れたのだった。ええ？ これ。

ケイタ

おい、それ、カナコじゃないのか。

アイ

そうかも。(サクラコに)すごいね、よく見つけたね。

(この一連のやりとりでは、そもそもこんなに簡単に手掛かりが見つけれられることはあり得ないのだが、サクラコがさりげなく答えを導いている様子を見せておきたい。)

ケイタ 行くぞ、助けにいかなきゃ。

ソウタロウ い、いやだよ。

ケイタ あん？

ソウタロウ 1945年って、戦時中だろう？

ケイタ 馬鹿野郎、お前、カナコがどうなってもいいのかよ。

ソウタロウ えーと、(教科書を開いて) 6月23日と言えば、5月に学校が閉鎖されて、あ、沖縄

が米軍によって陥落したころだ。

アイ 何、見てんの？

アイ、ソウタロウの本を取り上げる。

アイ 山川学習社日本史B。

ソウタロウ ぼ、ぼくは、受験勉強が忙しいから、や、やめとくよ、じゃ、じゃあね。

ケイタ お、おい、こら。

ソウタロウ、逃げていく。

サクラコ ちよ、ちよっと見てくる！

サクラコ、ソウタロウを追って去る。

アイ 行っちゃった。

ケイタ 俺らだけでも行くぞ。

アイ え？

ケイタ なんだよ、文句あんのか？

アイ あ、いや、・・・行く。

ケイタ よし、1945年6月23日、な。

アイ ちよっと待って、資料になりそうなもの、他にない？みんなカバンに入れとくから。あのね、最初、衝撃すごいから、気をつけて、

ケイタ 分かった。

ケイタ、カレンダーを1945年6月23日に合わせる。
爆音。

第5章 タイムトラベラー1945

アイ、ケイタ倒れこむ。

エイジ、サクラコがいる。サクラコはもんぺ姿。

第3章につながっている。

映像「カナコを探して、二人が来たのは、1945年6月23日」

エイジ・サクラコ (驚いて) わー

サクラコ あなたたち、いつの間にいたの！

ケイタ え？ああ、
アイ ねえ、今、何年？
エイジ え？
サクラコ 昭和、
アイ うん、昭和！
サクラコ 20年。
ケイタ よし、カナコはどこだ！
アイ あれ、ちよっと待って？
ケイタ え？

アイ、サクラコの姿を見て、怪訝に思う。

アイ あなた、さっき外に出ていったのに、なんでここにいるの？
サクラコ え？なんのこと？
アイ なにその格好？もんぺとか、
サクラコ ええ？

そこへ、軍人、五所川原ソウイチロウ登場。

ソウイチロウ エイジ、そろそろ時間だ。
エイジ ねえ、父さん、

ケイタ、ソウイチロウの姿を見て、

ケイタ あ、ソウタロウ、貴様！逃げ出しやがて、
アイ 待って！
ケイタ これ、ソウタロウくんじゃないわよ。
アイ え？
ソウイチロウ 私は、五所川原ソウイチロウ。内閣府特別司令官だ。
アイ ほら、
ケイタ こ、こいつが、例のひいじいちゃんか、
ソウイチロウ 別れのあいさつは済んだかな、サクラコちゃん。
アイ サクラコ、あなたサクラコって言うの？
ソウイチロウ 君たち、友達か。見慣れん顔だな。

ケイタに近づいて、その格好を見て、

ソウイチロウ 君、学生服の布も足りてないのか。
ケイタ ちげーよ、短ランだよ。
ソウイチロウ ズボンも、こんなモンペを履いて。
ケイタ ボンタンだよ、これは。
ソウイチロウ 確かに戦局は苦しい。しかし、大日本帝国は必ず勝利する、それを信じていよう。
ケイタ なに言ってるんだ、このオッサン。
ソウイチロウ お嬢さん。
アイ はい。
ソウイチロウ ドイツから来られたんですか。
アイ 違います！

ソウイチロウ 盟友ナチス・ドイツは倒れましたが、我々は最後まで戦い抜く覚悟であります。

エイジ

ねえ、父さん。

ケイタ

お、父さんってことは、お前、あれか、ソウタロウのじいちゃんに当たる訳か。

アイ

なんか登場人物が多くて混乱するわね。

エイジ

父さん、僕、この戦争は、

アイ

(遮って)あもう、私たち、人を探してるの。

ソウイチロウ

ほう、尋ね人。

アイ

シブヤカナコって女の子なんだけど。

ソウイチロウ

知ってるかな、

サクラコ

さあ、私の女学校にはいないわ。

エイジ

知らないな。あなたたち、どこから来たんですか。

アイ

あの、信じられないかもしれないけど、・・・未来から。

ソウイチロウ

ミラノ！ ムツソリーニ・イタリアでありますか、

アイ

違います！

ソウイチロウ

我々、大日本帝国は、必ず勝利します。この我が息子、エイジがきつと戦地にて奇跡

を起こしてくれるでしょう。な。

エイジ

・・・

ソウイチロウ

では、エイジ。

サクラコ

あの、

ソウイチロウ

行け、戦場で華々しく散ってくるのだ。

エイジ

・・・

エイジ、仕方なく去る。

サクラコ

エイジさん・・・

ソウイチロウ

サクラコちゃん、これもお国のためだ。

サクラコ

・・・どうしてですか。どうして、自分の子供を、平気で戦地に送り込めるんですか。

ソウイチロウ

何を言っているんだ。

サクラコ

エイジさん、この戦争は間違ってるって言ってた。ねえ、おじさん、鈴木貫太郎と知

ソウイチロウ

り合いなんですよ？すぐにこんな戦争をやめさせてよ。

サクラコ

滅多なことを言うもんじゃない！

ソウイチロウ

・・・

ソウイチロウ

それに、エイジだって、あんなに立派に、旅立って行ったじゃないか。応援してあげ

サクラコ

・・・

ソウイチロウ、去る。

アイ

なんか、ソウタロウくんが言ってたのとちよつと違うね。戦争を終わらせた人なんじゃ。

サクラコ

あの人、人なんか殺せる人じゃないんです。

ケイタ

昔の人は馬鹿だよなー、どうせ日本は戦争に負けるのに。

サクラコ

・・・

サクラコ、悲しみがこみ上げて来て、耐えきれずに去る。

アイ

ちよつとあんた、なんでデリカシーのないこと言うのよ。

ケイタ

しょうがねえだろ、事実なんだから。それよりほら、カナコ探さなきゃ。

アイ ねえ、それなんだけど、カナコちゃん来たの、ここじゃないんじゃない？
ケイタ ええ？だって、日記に書いてあったじゃん、「未来から来た人たち」って。
アイ ねえ、それって、私たちのことじゃない？ まず、「人たち」って。
ケイタ あ！お前、早く言えよ。
アイ ね、ほかにカナコちゃんがタイムスリップして行きそうなところ、ないの？
ケイタ うーん。あいつ、母親が交通事故で死んでからおかしくなったんだ。あ、なあ、もしかして、
アイ なに？
ケイタ こんなこと考えられないかな。その交通事故の日に行って、交通事故を止めようとする。
アイ あんた、頭いいじゃん。それ、いつなの？
ケイタ 1年前、えーと、1998年10月24日。
アイ すごい、日付まで覚えてるんだ。
ケイタ カナコの誕生日の日に、死んだんだ。
アイ 誕生日の日に・・・、可哀そう・・・。分かった、行きましょう。

という所に、エイジ戻ってくる。

エイジ エイジ 父さん、やっぱり僕、戦争は間違っている・・・
アイ いくわよ、1998年10月24日へ。

爆音、エイジ巻き込まれる。

映像「1998年、10月24日」

第6章 タイムトラベラー1998

外は雨らしい。

カウンターの前にカナコがいる。

また、サクラコが本を読んでいる。セーラー服姿。

爆音に巻き込まれて倒れていたエイジ、目を覚ます。

辺りを見回し、訳がわからず、身を隠す。

しばらくして、ケイタ、アイが目を覚ます。

ケイタ、カウンターの前にいるカナコを見つけて、

ケイタ おお、カナコ！

カナコ (びつくりする) え？え？

ケイタ カナコ、未来に帰ろう！

カナコ な、何、言ってるの？ケイタ。

アイ、ケイタを制して、

アイ ちよ、ちよっと、違うんじゃないの？

ケイタ え？

アイ これは、1998年10月24日のカナコちゃん、私たちが探してるのは、1999年か

ら来たカナコちゃんですよ。

ケイタ あ！ややこしいな。

アイ もしも、この時代にいるんだとしたら、ここじゃなくて、お母さんを助けに行っていると思
うの。

ケイタ そうか、わりい。

カナコ ？

アイ じゃあ、探しに行こう。

アイ、ケイタ、外に出ていく。

カナコ ちよつと、ケイタ！なんなの？

と、そこでカナコのケータイが鳴る。

電話している最中に、短ラン、ボンタン姿のケイタが入ってくる。1998年のケイタである。ケイタは、書架に行つて本を探している。

カナコ あ、お母さん？何？——え？——何？ 仕事で遅くなる？——どうして？——だって、今日は——何で、ええ？——うん、うん、——だって、——うん、——バカ。(電話を切る)

ケイタ、本を借りてきて、カウンターに持つてくる。

カナコ カール・マルクス『資本論』。どうせ読まないクセに、

ケイタ あん？

カナコ どうせ読まないクセにつて、言つてんの！（虫の居所が悪い）

ケイタ ……お、お、……なんだよ……、

ケイタ、カナコの勢いに気圧されて去る。カナコ、カウンターで機嫌が悪い。

カナコ 全く。…『資本論』。こんな本、借りてる人いるんだ。あれ？ 3年1組アオヤマトモエ…。1969年。…お母さん…？

雨足が強くなつてくる。遠雷。
場面は急速に怪しげな雰囲気になつてくる。（実は、ここから歴史が変わつて行くのだ）
と、潜んでいるエイジが顔を出す。

カナコ なんか、変な天気。（時計を見て）あ、こんな時間。

カナコ、荷物をまとめて図書室を出て行く。
入り口付近で、少し足を止めるカナコ。不穏な空気を少し感じている。
だが、去つていく。

エイジ、その様子を見届けてから、図書室の外に出る。

エイジ 父さんに、言わなきゃ。

サクラコ、エイジが去つて行つた先を見つめている。

サクラコ エイジさん…、

雷鳴。

サクラコ、書架の奥に去る。雨脚がますます強くなる。
遠くから、銃撃戦のような音が聞こえる。

アイとケイタ、戻ってくる。二人、青ざめている。

アイ　ねえ、おかしくない？

ケイタ　あ、ああ、おかしい。

アイ　どう、なっちゃってんの？

ケイタ　わからない・・・

遠くで砲撃の音が聞こえる。

エイジ、入口付近に顔を出す。

アイ　（気づいて）あれ？

エイジ、隠れて、またどこかへ行ってしまふ。

ケイタ　どうした？

アイ　今、あの軍人さんがいたような。あの、エイジさんとかいう。

ケイタ　ソウタロウのじいちゃんか？　まさか、今は1998年だぜ。

アイ　うん、なんかいろいろおかしいね。たぶんさ、こう、なんかいっぱい、色んな時代に行ったから、私たちの頭がおかしくなっちゃったんじゃない？

ケイタ　う、うん、たぶん疲れてるんだ。

アイ　・・・戻ろっか。

ケイタ　うん。

アイ、1999年11月12日にカレンダーを合わせる。
爆音。

第7章　失われた時を求めて

アイ、ケイタ、目を覚ますとそこにソウタロウ。

ソウタロウ、軍服を着ている。

部下を二人従えている。

「1999年11月12日」

ソウタロウ　貴様ー、どこをほつつき歩いてた！

アイ・ケイタ　え？

ソウタロウ　敵前逃亡とは、この腰ぬけが！大日本社会主義帝国の国民として恥ずかしくないのか！

アイ　ソウタロウくん、どうしたの、その格好？

ソウタロウ　貴様、女子にうつつを抜かしていやがったか！

ケイタ　はあ？

アイ　ちよっと、ねえ、なんなの？

アイ、ソウタロウに近づく。

ソウタロウ　触るな！けがらわしい（突き飛ばす）

アイ　きや（倒れる）

ケイタ おい、お前。さつきから聞いてたら、なんなんだよ、あん？ソウタロウのくせに・・・

ケイタがソウタロウに掴みかかろうとしたとき、ソウタロウ、素早く拳銃を抜き、ケイタを撃つ。

ケイタ ぐは、

アイ ちよ、ちよっと、ケイタ！

ケイタ、倒れる。

ソウタロウ 処理しろ、

部下が、ぐったりとしたケイタを連れていく。

アイ え？え？嘘、

ソウタロウ 全く、負け犬が・・・あんたも。

アイ は、はい。

ソウタロウ 見慣れん顔だな。ところでここ1年ほどな、配給の食料が何者かに盗みだされている。まさか、お前じゃないだろうな。

アイ いやいやいや、

ソウタロウ ふん、

ソウタロウ、去る。

呆然とするアイ。

アイ おかしい、歴史が、変わっちゃったんだ・・・あ、歴史の本！そうだ、歴史の本・・・

アイ、書架に行つて、歴史の本を探す。

と、カウンターの奥にエイジの姿。アイが戻ってくると、すぐに顔を引っ込める。

アイ えつと、これが、ソウタロウ君が使つた、日本史の参考書。(図書館の歴史の本と、持ってきた教科書とを見比べる)。1945年8月5日、広島に原爆投下。同じく8月7日、長崎に原爆投下。ここまでは同じだ。で、15日に終戦・・・してない！ え？え？それで、ずっと戦争は泥沼化していつて、ソビエト連邦、本土上陸？え？そして、1947年、東京条約にて、大日本社会主義帝国成立？・・・わー、そ、その後も戦争、戦争、戦争・・・！どっから、変わっちゃったんだろう・・・。

雷鳴。

狼狽しているアイ、カウンターに入っていく。と、身を隠していたエイジと遭遇。

アイ わー！

エイジ わー！

アイとエイジはストップモーション。

場面転換。

映像。「1969年6月24日」。

ここからは、二つの時代が同時に進行する。

トモエ 我々、ピースバイピースは、大日本社会主義帝国が一刻も早く、終戦条約を結ぶことを求めろ！
サクラコ 求める！

トモエとサクラコ、二人だけで反戦運動を続けている。
と、そこにいつの間にか、カナコがいる。

サクラコ あれ！

トモエ ああ！

カナコ え？

トモエ あなた、いつの間ここにいたの！

カナコ え？あれ？今、いつ？

トモエ は？

カナコ 今、西暦何年？

トモエ 1969年

サクラコ の6月24日。

カナコ えー、ホントにできるんだ。すごい！

カナコ、カレンダーを上げ上げと眺める。

トモエ 何なの？

カナコ 皆さん、何、してるんですか？

トモエ 反戦運動よ、見れば分かるでしょ？私たち、ピース・バイ・ピースっていう反戦運動団体なの。二人しかないけど。

サクラコ さみしいね。

(変わっていつてしまった歴史の中でも、ピース・バイ・ピースはやっぱ反戦運動をしているのだ。)

トモエ 私が一人でやってただけど、この子がこの前、参加してくれたのよ。いつの間にかいたの。

サクラコ あなたもやる？

トモエ 私は、3年1組青山トモエ。よろしくね。

カナコ 青山・・・トモ・・・

カナコ、トモエを見つめる。

サクラコ あなたは？

カナコ 渋谷カナ・・・あ、いえ、私、ノリコって言います。

場面転換。

「1999年11月12日」

エイジとアイ。

アイ、逃げようとするが、

エイジ 待って！

アイ え？（振り返る）あー、貴方！
 エイジ 君、未来から来た・・・
 アイ え？ どうしてこんな所に？
 エイジ 良かった、君たちをずっと探して、もう1年になるんだ。
 アイ え？
 エイジ 一体、どうなってしまっているんだ。
 アイ いや、私もよく分からないんだけど、
 エイジ ゆっくりと話をしよう。君も困っているんだろう。そう、僕も困っているんだ。
 アイ ・・・・
 エイジ お互い、今、どうしてこうなっているかを話し合おう。
 アイ そ、そうね・・・たぶん、世界は大変なことになっている。

雷鳴。

エイジ いいかい、僕が、わかったことはこうだ。・・・つまり、今は、1999年違うかい？

アイ ・・・・う、うん、たぶん、

エイジ ・・・・たぶん、僕にとっての遠い未来だ。・・・どうだろう？

アイ ・・・・私にとっては過去なんだけどね。あ、でも歴史が変わっちゃってるから、過去じゃないか、ややこしいな。

エイジ どういうこと？

アイ あ、つまりね、

アイ、黒板で説明する。（図1）

アイ 私は、2009年から来て、で、1999年にタイムスリップ。で、いろいろやっているうちに、なんか歴史が変わっちゃって、いま、この1999年にいるんだ。

エイジ いろいろやってて？

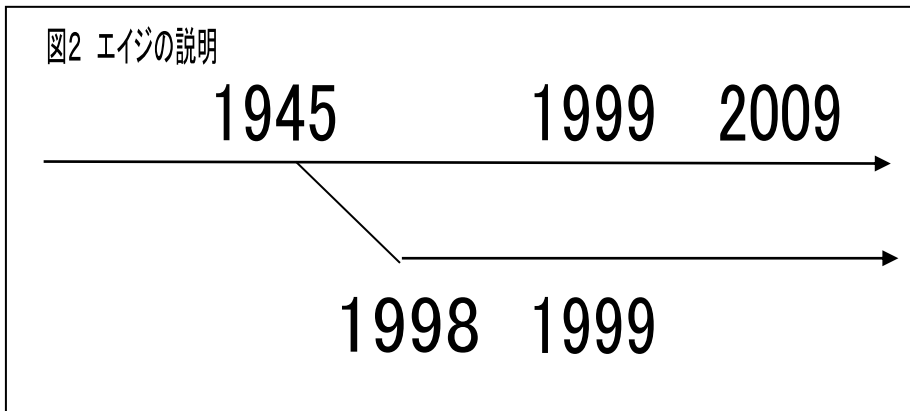
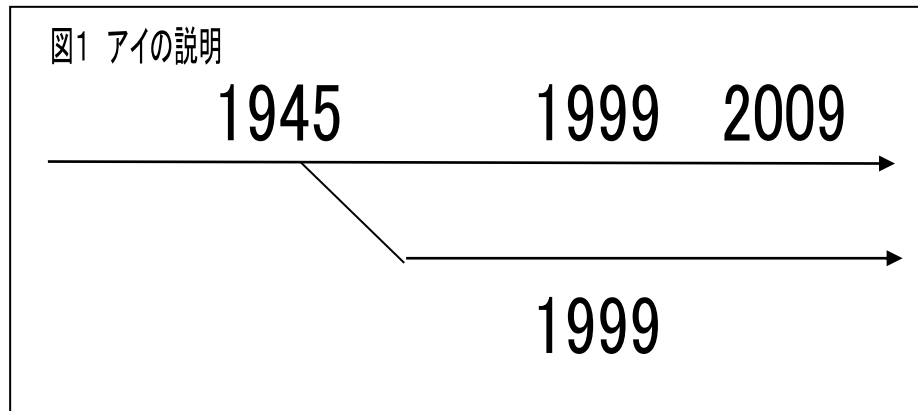
アイ うん、たぶんなんだけどね、本当はあなたが、お父さんに、鈴木貫太郎に戦争をやめるように言うべきだったと思うんだ。でも、私たちがそこを邪魔しちゃったから、歴史が変わっちゃったんだ。

エイジ 僕が・・・？

エイジも黒板で説明する。（図2）

エイジ たぶん、僕の話はこうだ。今まで、僕はじっくり考えたんだ。つまり、僕は、僕にとっての未来に、1年前に来た。つまり、1998年だ。たぶん、このことだろう。

アイ ええ？ あれ、もしかして、あの時、あ、そうか。私が1945年から1998年に来た時にあなたも一緒に、



あー、
エイジ それであっているのかい？
アイ あれ？ちよつと待って、でも、あなたが飛んできたのは、1998年でしょ、今は、1999年。
エイジ 僕は、1年間ここで過ごした。
アイ ここに1年間も？
エイジ タイムスリップって言うんだろ？ 僕は1年間、この図書館でいろいろな書物を読んだんだ。
アイ ちよつと待って、あなた、1年間、ずっとこの図書館に隠れてたの？ 食べ物は？
エイジ 恥ずかしながら、配給を少し盗ませていただいた。
アイ あんただったの！配給盗んだの！
エイジ なあ、・・・僕は1945年に帰りたいんだ。

場面転換。

「1969年6月24日」

カナコとトモエ。

サクラコはなぜかいない。

カナコ 『資本論』
トモエ え？
カナコ 読んだんですか。
トモエ うん、政治に関する本は片っ端から読もうと思って。
カナコ 何を書いてあるんですか。
トモエ そうね、資本主義社会においては、資本家が労働者を搾取するという社会構造になることは免れない。だから、社会主義国家を建設するべきだ。
カナコ はあ、
トモエ でも、社会主義には、致命的な欠陥があるわ。今の世の中を見てみればそれがよくわかる。そうでしょ？
カナコ よく、分からないけど。
トモエ だって、戦争がちつとも終わらないじゃない。私たちは、一刻も早く終戦条約が結ばれるように、戦っているの。あるとき、1945年に、ポツダム宣言が受諾されていけば、こんなことにならなかつたのに、
カナコ よく分からないけど、・・・でも『資本論』には感謝してます。
トモエ え？
カナコ だって、『資本論』のおかげで、あなたに会えたんだもの。

場面転換。

「1999年11月12日」

アイ なんとなく、分かってきた。つまり、あなたは1998年に、タイムスリップしてきてしまった。それで、きっと歴史が変わってしまったんだ。
エイジ うん。
アイ 戻りましょう、
エイジ え？
アイ たぶん、1945年に戻って、歴史をもとに戻さなきゃいけないんだわ。
エイジ でも、戻るって。
アイ あのカレンダーの日付を変えると、その日になるの。
エイジ ええ？ そんな、馬鹿な。

アイ 私も最初信じられなかったんだけど、うーん、たぶんね、こういうことじゃないかと思うの。私たちはこう考えてない？時間があって、それを表すために時計があり、カレンダーがある。でも、本当は、カレンダーがあつて、時間があるんじゃないかって。エイジ どういうこと？

アイ ま、難しいことはおいといて、行くわよ、1945年6月24日へ。

爆音。吹っ飛ばされる二人。

第8章 再び1945年へ

映像「1945年6月24日」
起き上がるエイジとアイ。

エイジ ……戻ってきたのか。

アイ 来たはず、

アイ、外に出て行ってみる。そして戻ってくる。

アイ 間違いない。戦時中だわ。

と、ソウイチロウ、静かに登場。
しかし、怒りに震えている。

ソウイチロウ エイジ、

エイジ ……父さん。

ソウイチロウ どこまで私に恥をかかせるつもりなんだ。また逃げ出して、こんなところで、しかも娘さんと、

アイ いや、違うんです、エイジくんは、未来で、

ソウイチロウ、拳銃を取り出す。

アイ !

ソウイチロウ もはや、我慢の限界だ、

エイジ 父さん…

ソウイチロウ 父さんなどと呼ぶな！非国民に、血のつながりなどあるものか！

エイジ ねえ、父さん、聞いてくれ。僕は、僕は、考えたんだ。この戦争は、この戦争は間違っている。僕は、いろんな書物を読んで分かったんだ。日本は早く民主的な国家を作らなきゃ。未来に行つて、僕はまた書物を読んだ。一年間も、図書館にこもつて、本当にいろんな本を読んだ。それで分かったんだ。こんな戦争を続けても、絶対に意味がない！

ソウイチロウ 完全に頭がおかしくなつてしまったか、

エイジ 僕たちは！僕たちは何のために戦っているんだ！

ソウイチロウ、エイジを殴る。

ソウイチロウ 残念だ、息子よ、

引き金を引こうとしたその時、サクラコが止めに入る。

サクラコ やめてー！

もみ合いになる。

ソウイチロウ 離せ、話すんだ、

エイジ サクラコ！

そして、銃声、

サクラコ、ゆっくりと崩れ落ちる。

エイジ サクラコ！・・・サクラコ、サクラコ！

ソウイチロウ ・・・・あ、

エイジ 父さん、・・・なにしてたよー！

エイジ、ソウイチロウを殴る。

エイジ サクラコ、しつかりしろ、サクラコ、

サクラコ エイジさん、

消え入るような声でサクラコ。

エイジ サクラコ、大丈夫か・・・。

ソウイチロウ

エイジ

父さん！何してんだよ。これが！これがあんたの言う、日本男児の行動かよ。何の罪もない女の子にこんな目にあわせて、日本男児ってなんだよ！世の中狂ってるんだよ！こんな世の中・・・

サクラコ、消え入りそうな声で、

サクラコ ・・・・エイジさん、あなたが言った、平和な世の中って、本当に来るのかしら。

エイジ

エイジ ・・・・なんだか、私には、夢物語みたい。

エイジ サクラコ、しゃべるな。

サクラコ でも、エイジさん、あなたは頭がいいから、きっとあなたの言うとおりになるわ・・・

ああ、私も、ずっとこの図書館で、いろんな本を読んでみたい・・・、

エイジ サクラコ！！

そこへ、アイ。

アイ きつと来るわ。サクラコさん。

サクラコ

アイ

平和な世の中、きつと来るわ。でも、そのためには、必要な人がいるの。五所川原ソウイチロウさん。あなたの力が必要です。

ソウイチロウ

アイ

五所川原さん。あなたは、総理大臣鈴木貫太郎に、一刻も早く終戦するように伝えるんです。それが今、あなたにできる全てのことです。

ソウイチロウ なにを言ってるんだ、
アイ

この戦争は、絶対に日本が勝つことはありません。私は知ってるんです。この教科書にも書いてあります。そしてそれは、あなたが終わらせるんです。あなたは、あなたの名前は、教科書には載らないけど、孫も、そのひ孫も、みんなあなたのことを本当に誇りに思っているんです。

ソウイチロウ

しかし、

なんなら、これをあなたに差し上げます。あなたのことを尊敬してやまない、ひ孫さんのものです。これからの日本の歴史のことが記されています。

アイ

アイ、日本史の教科書をソウイチロウに渡すと、空襲警報。

エイジ

まずい、空襲警報だ。防空壕へ早く。サクラコ、しっかりするんだ。

ソウイチロウ

……

アイ 五所川原さんも、早く、

エイジ、サクラコをおぶって去る。ソウイチロウ、アイも去る。
高まる空襲警報。

第8章 とても素敵な子だよ

映像「ところで、2009年11月12日」

未来のケイタである。(私服)

ケイタ、椅子に座っている。

そこへ、トモエ。

ケイタ、それに気づいて、

ケイタ ああ、えっと君は確か。

トモエ え？

ケイタ 1969年から来た？

トモエ え？ 分かっているんですか。全部、分かっているんですか。

ケイタ ……うん。

ちなみにこの場面は、第1章の時間軸の延長上にある。

トモエ 来ちゃいました。

ケイタ ……そっか。

トモエ 日本は、

ケイタ え？

トモエ 未来の日本は、平和なんですか、

ケイタ うん、平和、だな、

トモエ そっか、良かった。それが分かればいいんです。

ケイタ そっか。

トモエ あの、

ケイタ え？

トモエ 未来の私、幸せですか。

ケイタ ……

トモエ あー、やっぱり言わなくていい。
ケイタ ……
トモエ (顔をうかがって)……あー、やっぱりいい。
ケイタ ……
トモエ あー！
ケイタ 何なんだよ！
トモエ なんていうか、
ケイタ えっと、青山トモエさん。カナコちゃんのお母さんだね。
トモエ ……娘がいるんですか。
ケイタ うん、とっても素敵な子だよ。

暗転。

第9章 バック・トウ・ザ・フューチャー

暗闇の中、空襲の音が響いている。
映像「1945年6月24日」。
やがて空襲が収まってくる。
図書館にも朝日が差し込んで来る。
そこへ、アイ入ってきて、

アイ うわー、あんなに空襲あったのに、全然なんともない…。すごいなこの建物。
サクラコ、入ってくる。セーラー服を着ている。
もんぺではなく、スカートをはいている。

アイ あれ、サクラコちゃん。ケガは？
サクラコ うん、治っちゃったみたい。
アイ えー、うっそー。
サクラコ えへへ。

二人、なんとなく笑う。
と、アイ、独り言。

アイ はあ、これで、もう未来に帰って大丈夫かな、
サクラコ もう、大丈夫だよ。
アイ え？
サクラコ 平和な時代が来そうな気がする。全部、元通りになった。
アイ そうかな…。あ、そうだ！カナコちゃん探しに行かなきゃ。すっかり忘れてた。そも
サクラコ 日記を、見てみたら？
アイ え？
サクラコ 日記。

アイ、カバンの中から、カナコの図書館ノートを取り出す。
と、そこからカードが出て来る。

アイ あ、これ、本、借りた人が書いてあるカード。なんでこんなのとつてあるんだろ。『資本論』。

ケイタの名前もある。あれ、青山トモエ。

サクラコ カナコちゃんのお母さん、トモエって言うんだよ。確か、旧姓は青山。

アイ、図書館ノートを開いて、カナコの日記を読む。

アイ 『資本論』にお母さんの名前を見つけた……。ああ！そうか。カナコちゃんは、図書館のカードで、お母さんが、本を借りたのを見つけて、それで1969年にタイムスリップしたんだ。お母さんに会いに。ねえ。

振り返ると、サクラコ、いなくなっている。

アイ あれ？サクラコちゃん？

再び空襲警報。

アイ ま、また空襲警報だ。行かないや、1969年へ。

アイ、カウンターのカレンダーを変えようとする。
とそのとき、声。

ケイタ ちよつと待ったー、

アイ え？

ケイタ、カウンターの奥から現れる。

ケイタ お前、完全に俺の存在、忘れてるだろ、

アイ け、ケイタ！

ケイタ イテテテ、今、未来から帰ってきたところよ。

アイ 未来っていうのは、変わっちゃっていた未来のことね。でも、生きてたの！だって、銃でバキューンって、

ケイタ そうなんだけだよ。内ポケットに入れてた、小林多喜二が守ってくれた。

とケイタ、ポケットから、文庫本を取り出す。

アイ そんな、ベタな！

ケイタ ムダに厚い本書いてくれたおかげで助かったよ。『蟹工船』。

アイ ケイタ、

ケイタ よし、行くぞ、

アイ うん、1969年へ。未来へ、帰ろう！

終章 やつと昔話ができる。

爆音。

「1969年6月24日」

学生運動の人びとがいる。

そこに、ケイタとアイ。

ツトム わー、
男1 また増えてる！
ケイタ カナコ！

学生たちの中に、カナコを見つける。

カナコ あれ、ケイタ。なんでここに？
ケイタ なんてじゃねえだろうが。お前を探して、大変なことになったんだぞ、
カナコ ・・・別に探さなくても良かったのに、
アイ カナコさん、帰りましょ、
カナコ 言われなくても帰るし。
トモエ ちよ、ちよっと、どういうこと？ノリコさん、
ケイタ ノリコ？
ツトム そうだよ、どういうことだよ、酒井さん、
アイ あんた、そんな名前使ってたの？

気まずい顔のカナコ。

男1 え？ちよっと待って、カナコっていうのは、
カナコ ああ、え？あの、あれ、・・・ミドルネームよ、
全員 ミドルネーム？

腑に落ちない様子の学生たち。

アイ あの、ちよっとお願いがあるんですけど、すみませんが、ちよっと外に出てもらえませんか？
全員 え？
男2 ダメだよ、バリケード作って立てこもってるんだから。
アイ でも、出てもらわないと、一緒に、未来に飛んじゃうんだよね。
全員 はあ？
サクラコ いいんじゃない？
全員 え？
サクラコ そろそろ？
男1 いやいや。

拒否する学生たち。しかし、

ツトム よし。
全員 え？
ツトム 結集してくれた、学友諸君。バリケードの外に出よう。
全員 ええ？
ツトム なんだか、それがいいような気がするんだ。全員、何か、異議のある者はいるか！
サクラコ 異議なし。
全員 ええ？

全員、しぶしぶと「異議なし」などと。

アイ よし。じゃあ、はいはい、皆さん、出て、出て、

全員を外に押し出す。しゅしゅとみんな外に出る。
と、その中のトモエの背中にカナコ、

カナコ お母さん。

トモエ、振り返る。(なぜ振り返ってしまったのだろうか?)

カナコ ううん、青山トモエさん。……あのね、もしも、あなたに子供ができたら、あの、2番目に可愛い娘が生まれたら、……誕生日に、シチューを作ってあげて。とても喜ぶと思うから。

トモエ ……うん、

トモエ、去る。その後ろ姿を見送るトモエ。と、振り返って、

トモエ カナコ、って、いい名前ね。

トモエ、去る。

カナコ え?

そこへ、ツトム戻ってくる。

ツトム なあ、よく分からないんだけど、君たちなら、何か分かるかな。実は、僕の家には、五所川原家に代々伝わる家宝があるんだ。それは、僕の息子が高校生になって、受験勉強を始めるまで決して開けちゃいけないという箱に仕舞われている。それは、未来を語るものだ、おじいちゃんの代から伝わっているんだ。

アイ あ、あのね! ……それ、……必ずあなたの息子さんに渡してあげて。ちょっと、借りちゃったの。

ツトム そうか ……わかった。

ツトム、去る。

アイ さーて、ケイタ、カナコちゃん、帰るわよ。

アイ、カレンダーの日付を変える。

アイ 1999年へ、

爆音。

「1999年11月12日」

アイ いやー、何回やっても辛いね、この衝撃。

起き上がったケイタ、新聞を見て、

ケイタ 見ろ、戻ってるぞ、ちゃんと平和な時代に。小渕首相。党首討論。
アイ 良かったー。

安堵する一同。

アイ さて、私は今度、2009年に戻らなきゃ、
カナコ なんか、ごめんね、私のせいで、大変なメにあわせちゃた？
ケイタ ほんとに大変だったよ。死にそうだった。

アイ でも、ちゃんと戻ってこれて良かった。あ、ごめん、私、2009年に帰らなきゃいけないから、ちよつと外に出ててくれる？

カナコ ねえ、私たち、未来でまた会えるかな？

アイ うん、きつと会いに行く。

ケイタ 俺のところも来てくれよ、

アイ えー。

ケイタ おい、

アイ うそうそ、きつと会うよ、私たち……。はいはい、出てください。

と、そこに、ソウタロウ登場。

ソウタロウ ねえ、ぼ、僕の教科書、返してくれないかな、あれ、ウチの家宝なんだよね。
ケイタ あー、はいはいはい、

ケイタがソウタロウを外に出す。

アイとカナコが図書室の中に残る。

アイ でも、ちよつと悔しいな。

カナコ え？

アイ 初恋の人にはかなわないからなー、

カナコ なになにに、どういうこと？

アイ ケイタ、カナコちゃんのこと、好きなんだよ。

カナコ 嘘。

アイ ううん、これ、見て。ケイタの借りた本。

アイ、ケイタの個人カードを見せる。

アイ 作者のどこ読んで、

カナコ 志賀直哉、ブレーズ・パスカル、山本周五郎、カール・マルクス、夏目漱石、小林多喜二。

アイ 頭文字を読んでみて。

カナコ シ・ブ・ヤ・カナコ。

アイ メッセージだよ。

カナコ え？え？え？。。。うそ。。。ええ。。。？

カナコ、フラフラと歩きだし、放心状態のまま、外に出ていく。

アイ、その後姿を見て、満足げに、

アイ よし、2009年へ。

爆音。吹っ飛ばされるアイ。

2009年

目が覚めるアイ。

カウンターの中には、ケイタがいる。

ケイタ、アイを待っていたように、

ケイタ　・・・やあ、お帰り。

アイ、起き上がって、

アイ　ケイタ、あの。

ケイタ　言わなくていいよ。

アイ　え？

ケイタ　みんな知ってるから。

アイ　・・・

ケイタ　とりあえず帰ろう。そしてお茶でも飲もう。やっど、昔話ができる。

アイ　・・・うん。

ケイタ　あ、その前に。

とケイタ、リボンをかけられた本の束を取り出す。

ケイタ　プレゼント。

アイ　え？なに？なに？

ケイタ、アイに本の束を渡す。アイ、本を見ながら、

アイ　正岡子規、ツルゲーネフ、森鷗外、トルストイ、芥川龍之介、井伏鱒二・・・

ケイタ　うふふふふ、頭文字を読むと？

アイ　ええ？　正岡子規の「ま」、ツルゲーネフの「つ」、森鷗外の「も」「と」「あ」「い」・・・ま
つもとあい。

ケイタ　うふふふふ、

アイ　・・・あはははは、

ケイタ　うふふふふ、

アイ　（ひきつった笑い）あはははは、

ケイタ　うふふふふ、

アイ　もう！

アイ、ケイタに思いっきり平手打ち。

そして去っていく。

ケイタ　痛っ！おい、どうしてだよ。

ケイタ、追いかけていく。

誰もいなくなった図書館に、サクラコ。

書架から本を取り出して、読み始める。

そこへアイ、戻ってくる。

アイ 忘れ物、忘れ物・・・、

サクラコと目が合う。

アイ あなた・・・どうして、ここにいるの？

サクラコ ……

アイ 撃たれたケガ、大丈夫？

サクラコ 言ったでしょ？

アイ え？

サクラコ ……出るって、

— 見つめあうサクラコとアイ。

音楽。

おわり

(参考) ロバート・ゼメキス監督 『バック・トゥ・ザ・フューチャー』